

理科 第6学年 自然とともに生きる 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「人の暮らしと生物の環境を、どのように両立させられるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(3)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：地域の水辺や緑地について、そこにすむ生物、水の利用、人の活動の資料を関係図にする。環境を守る取組を選び、どの関係に働きかけるのか、暮らしにどんな条件が必要かを説明する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(3)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：ごみを減らそうという標語だけでは、生物の何を守るかが見えない。水・空気・食べ物のつながりのどこが変わるのかを図でたどり、効果を確認する方法まで考える。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(3)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。取組の効果と必要な条件を比較する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：生息地へ立ち入ったり生物を放したりせず、観察と公的資料で調べる。環境改善のためでも地域の生物を別の場所へ移さない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(3)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：地域の水辺や緑地について、そこにすむ生物、水の利用、人の活動の資料を関係図にする。環境を守る取組を選び、どの関係に働きかけるのか、暮らしにどんな条件が必要かを説明する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全4時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「人の暮らしと生物の環境を、どのように両立させられるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確認する過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「人の暮らしと生物の環境を、どのように両立させられるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。実行後に確かめたいことをまとめる活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

